

船舶事故調査報告書

平成26年11月20日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄司邦昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根本美奈

事故種類	沈没
発生日時	不明（平成25年2月9日 01時00分ごろ～07時40分ごろの間）
発生場所	神奈川県横須賀市横須賀港第2区 横須賀市所在の吾妻島の吾妻山山頂（標高87m）から真方位330° 1,510m付近 （概位 北緯35° 18.6′ 東経139° 38.3′）
事故調査の経過	平成25年2月13日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨物船 第七きよすみ、19トン 232-29746 神奈川、個人所有 15.88m (Lr) × 4.99m × 1.70m、鋼 ディーゼル機関、147.1kW、昭和52年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 80歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和53年10月27日 免許証交付日 平成24年1月20日 （平成29年3月24日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、用船者ほか1人を乗せ、横須賀港第3区に錨泊中の船舶に接舷してゴミ袋約30個、約1tを積載した後、平成25年2月8日20時00分ごろ京浜港横浜区に向かった。 船長は、23時30分ごろ、京浜港横浜第5区付近において、北からの強風による風浪を船首側に受けながら、約5ノットの速力で航行中、航行を続けることが困難と判断して引き返したとき、覆いも蓋もない船倉のゴミの上面が発発時に比べて高くなっていることに気付き、船倉に海水が入ったことを知った。 本船は、9日01時00分ごろ横須賀港第2区の深浦湾奥の物揚場に着岸し、船倉の状況が確認されずに右舷着けで係留中、船長が、操舵室で仮眠をとり、目覚めた際、07時40分ごろ半水没状態となっ

	<p>ていることに気付いた。</p> <p>本船は、用船者によって流出油の拡散防止等の措置が施された後、陸揚げされ、造船所で船底外板に亀裂が生じていることが判明し、修復困難と判断されて解体処分された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北、風力 3、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の中央期</p> <p>神奈川県横浜市に2月7日04時20分から2月8日23時49分まで強風注意報が発表されていた。</p>
その他の事項	<p>本船は、茨城県鹿島港で港湾荷役会社の運搬船として稼働していたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による津波で陸上に打ち上げられ、陸上に置かれた状態で塗装が行われ、約3か月後にクレーンにより、海に浮かべられた。</p> <p>本船は、平成24年7月に現在の船舶所有者へ無償譲渡され、臨時航行許可を受けて11月に京浜港横浜区へ回航された後、本事故発生の前日から稼働したが、乗揚又は衝突事故を起こしたことはなかった。</p> <p>本船は、横浜回航後から本事故発生時まで上架しての点検及び整備が行われておらず、平成25年2月14日に上架して中間検査を受ける予定であった。</p> <p>本船は、二重底になっておらず、8日に横須賀港で荷を積むまで船底にビルジが全くなかった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明</p> <p>不明</p> <p>不明</p> <p>本船は、横須賀港第2区の物揚場に9日01時00分ごろ係留し、船長が、07時40分ごろ半水没状態となっていることに気付いたので、この間において、船底外板に亀裂が生じていたことから、浸水して沈没したものと考えられる。</p> <p>本船は、津波で陸上に打ち上げられた際に船底外板に亀裂が生じた可能性があると考えられるが、船底外板に亀裂が生じた状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、横須賀港第2区の物揚場に係留中、船底外板に亀裂が生じていたため、浸水して沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期間運航していなかった船舶を使用する場合は、上架して点検及び整備を行うこと。